

(19) 山形県鶴岡市青年会議所「2001 鶴岡ジュニアベンチャーカレッジ」

<p>教育の対象者 高校生</p> <p>教育の実施者 鶴岡市青年会議所(鶴岡市J C)</p> <p>教育プログラム実施のコーディネーター 鶴岡市青年会議所</p> <p>教育プログラムの企画者 鶴岡市青年会議所</p>
<p>教育プログラム企画の背景・経緯</p> <p>地元の高校生に会社設立から店舗での物品販売、資金繰り、決算までの起業を実際に体験してもらう鶴岡市青年会議所(佐藤公力理事長、104人)の新規事業。同青年会議所では、小学生を対象に、1998年度「ミステリー・エコエネルギー・パワー」(電気自動車、ソーラーカーの試乗及び自然との共生をテーマとしたキャンプの実施、40名参加)、1999年度には「チャレンジ'99」(冒険家の大場満朗氏と小学生による、チャレンジ(自立精神)する意味についての2日間に渡るキャンプ、討論の実施、40名参加)を実施。</p> <p>さらに、2000年度は「人力ハイブリットカーを自分たちで作ろう！」(小中学生25名参加)を実施。</p> <p>2001年度、同青年会議所では、「今、教育に何が必要だろうか？」というテーマのもと、現在の鶴岡市が抱える「地域の景気低迷」「雇用需要の減少」「若い人材の県外流出」といった地域の課題についての検討を重ね、地域を考え創造する人材を育成する教育環境の整備をその解決策として位置づけた。具体的には、地方を独自で経営していく担い手である「社会起業家の育成」とそれに伴った「教育プログラムの作成」が不可欠と考えられた。</p> <p>以上のような経緯から、実社会に最も近い高校生を対象に、企業(仮想)の設立・経営・販売といった過程を体験できる環境を整えることを目的に、「2001 鶴岡ジュニアベンチャーカレッジ」の設立に至った。</p> <p>2001年1月、鶴岡市の協力を得て高校生の募集を開始。</p> <p>募集の段階で、「クリーンエネルギーを利用して地元貢献できるものを製作するものづくり会社」「商店街の空店舗を利用し地元貢献できるものを提供するサービス提供会社」の2つの会社を起業イメージとして提示。</p> <p>山添、鶴岡東、鶴岡工業、加茂水産の4高校から推薦された23名が参加した。</p> <p>教育プログラムの目標</p> <p>自立した考えを持つ若い人材を育成し、地域産業の活性化に結び付ける。</p> <p>教育プログラムの目的</p> <p>ベンチャー企業の体験を通じて自立した考えを持つ若い人材を育成し、起業家が生まれ定着する風土づくりを促す。</p>
<p>教育プログラムの内容</p> <p>実施期間・回数・頻度・延べ時間</p> <ul style="list-style-type: none">・2001年2月24日開校・2001年2～3月...月3回前後の勉強会・2001年5月...サービス提供会社の活動開始(お祭り会場でのテント設営、フリーマーケット出店、ライブの企画と司会、天神まつりイベントの司会と運営企画) <p>実施場所</p> <ul style="list-style-type: none">・鶴岡市勤労会館(開校式)、商店街の空店舗

<p>対象者の人数規模</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山添、鶴岡東、鶴岡工業、加茂水産の4高校からの23名 <p>プログラムの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2001年2～3月の勉強会は、企業運営・開業アイデアについての意見交換、事業計画の作成。3月に鶴岡市青年会議所例会で事業計画を発表した後、5月に事業を本格始動。 ・鶴岡銀座商店街の空き店舗に店を構えるベンチャー起業体験と、クリーンエネルギーをテーマとしたものづくりの2本立てである。前者のベンチャー企業として「ドリームファクトリー・イフ」が、後者のベンチャー企業として「チームワイパー」が起業。 ・「ドリームファクトリー・イフ」は、山添、鶴岡東、鶴岡工業、加茂水産の高校生9人によって起業。業務内容は、超短期人材派遣とイベントの企画。人材派遣は2人1組で基本料金は2時間2,500円。放課後や土・日曜日に仕事を行い、営業区域は鶴岡市街地。請け負う仕事は掃除や部屋の模様替え、会社の軽作業などである。 ・初仕事は、鶴岡山王商店街振興組合から依頼された山王日枝神社ライブコンサートの企画。テントの搬入撤去の請け負い、フリーマーケットも運営し、この日の事業収入は約70,000円。初仕事を踏まえて、常設店の収支計画を策定し、6月に鶴岡銀座商店街の空き店舗に事務所を構えて、10月中旬まで営業した。 ・また、営業活動により、「浴衣ファッションショー」の実施(地元呉服組合から依頼)、新商品の企画販売(食品製造会社から依頼)、マンションの維持清掃(建設会社から依頼)などのサービス活動も行った。 ・「チームワイパー」は、鶴岡工業高校の生徒10人で起業。車いすを使っている人の行動範囲が少しでも広がるよう、手動の車いすに取り付けて使用する軽量の補助電動装置を製作した。部品代は、地元で県外から進出してきた企業のオリエンタルモーター(鶴岡市)から寄付されたモーターを除いて約78,000円。本格的な電動車いすの実売価格(20～30万円前後)に比べ、割安な価格を実現した。鶴岡青年会議所は今後、車いすの利用者に試作機を使ってもらい、より実用的な製品になるよう改良を支援する。鶴岡工業高校は10月に開かれる県産業教育フェアに出品するなどして校内ベンチャー企業の成果を披露した。 <p>講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡青年会議所メンバー...企業運営についての指導
<p>行政・企業・地域社会による支援の状況</p> <p>鶴岡青年会議所、地元企業により技術・経済面での支援が見られる。特に鶴岡青年会議所では、新入会員募集の際に「2001 鶴岡ジュニアベンチャーカレッジ」をメイン事業として紹介、メンバーは積極的に高校生ベンチャー企業に仕事を発注する、メンバー全員が企業運営の先生となるなど、会議所全体での支援体制が築かれた。また、青年会議所広報委員会発行の広報紙では、ベンチャー2社の状況が毎月報告された。</p>
<p>照会先</p> <p>山形県鶴岡市青年会議所 地域創造委員会 地域政策委員会 理事 吉田 伸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〒997-0802 山形県鶴岡市伊勢原町 8-5 ・TEL:0235-24-0377 FAX:0235-22-5090

(資料)「初仕事さけり青春」『山形新聞』(2001年5月24日)、「ベンチャー」に任せて 高校生体験カレッジが開校」『山形新聞』(2001年2月25日)、「高校生が主役「起業体験」」『山形新聞』(2001年2月18日)、「鶴岡工高「ベンチャー企業」10人の初仕事」『山形新聞』(2001年6月22日夕刊)、山形県鶴岡市青年会議所ホームページ <http://www.dewa.or.jp/jc343/index.htm>